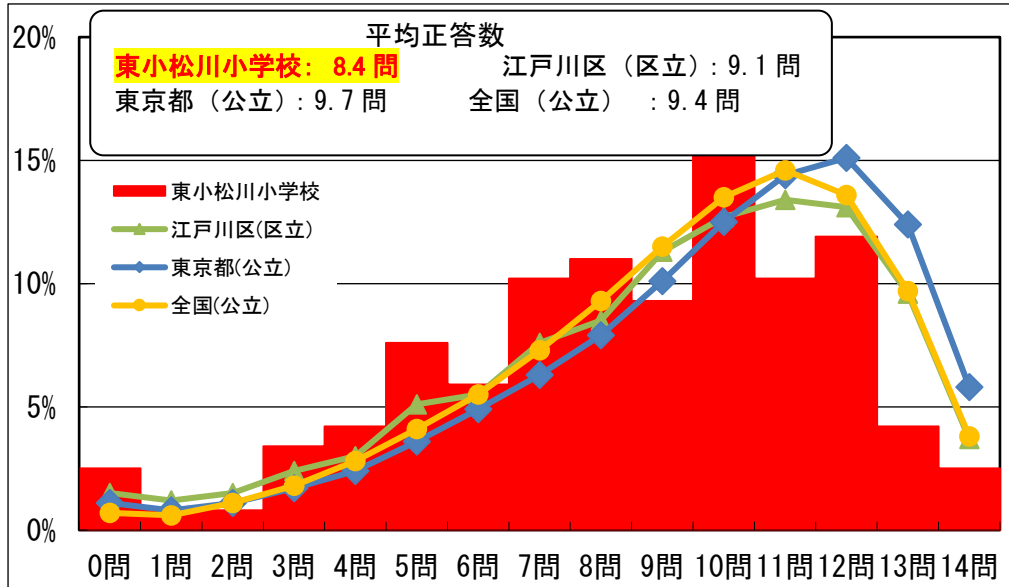


# 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 東小松川小学校

## 正答数分布



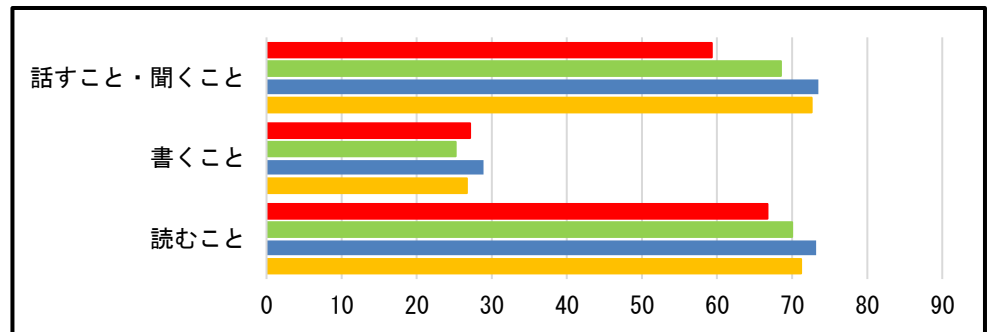
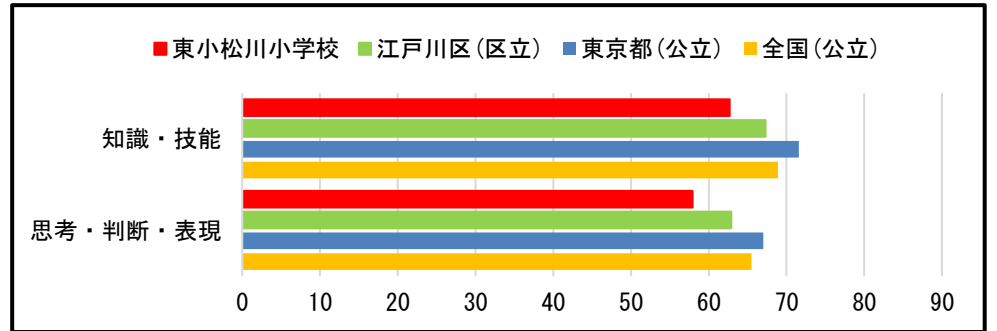
### <四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
<b>東小松川小学校</b>	<b>18.6</b>	<b>25.5</b>	<b>20.3</b>	<b>35.4</b>
江戸川区(区立)	26.4	26.1	19.8	27.7
東京都(公立)	33.3	26.9	18.0	21.8
全国(公立)	27.1	28.1	20.8	24.0

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

## 「領域別」の結果



### 【平均正答率の差】

<b>東小松川小学校</b>	<b>60%</b>
江戸川区(区立)	65%
東京都(公立)	69%
全国(公立)	67.2%
都との差	<b>-9ポイント</b>

%

### 【分析結果と授業改善に向けて】

学習指導要領の領域別の平均正答率を比較すると、「B 書くこと」は全国より平均正答率が若干上回っているものの、他はすべての領域において、全国や東京都より平均正答率が低いことが分かった。特に「A 話すこと・聞くこと」の平均正答率が低く、課題であることが明らかになった。また、「A 話すこと・聞くこと」の得点が思わしくなかった原因としては、自分の考えをまとめる力が十分に身に付いていないと考えられる。

改善策としては、対話活動の中で必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える力を育てていく。また、他者との意見交流をする活動の中で、目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる力を養っていく。